

水循環勉強会の開催結果

1 開催概要

(1) 開催日時

2024年1月31日（水）午後1時40分から午後3時30分まで

(2) 開催場所

おかざき自然体験の森

(3) 講師

指定管理者コニックス株式会社 岡田 康 氏

(4) 参加者

尾張・西三河・東三河地域水循環再生協議会 構成員20名

2 おかざき自然体験の森について

おかざき自然体験の森は、バンテリンドーム22個分の広大な敷地で、スギやヒノキの人工林、コナラなどの自然林、竹林で構成され、里山の自然を管理しながら、岡崎市の環境学習施設として運営されています。水源から沈砂池、調整池、ため池（権現池）、ビオトープ、田んぼが整備され、稲作体験や野菜づくり、ホテル観賞会、森づくりなどの林業体験、炭焼き、ビオトープづくりなど様々な活動を通じて水循環及び水環境の保全に取り組まれています。



(出典) おかざき自然体験の森パンフレット

3 開催状況について

おかざき自然体験の森の管理・運営を行うユニックス株式会社の岡田氏に、おかざき自然体験の森の取組について解説いただき、実際に湧水付近から水の流れに沿って現地を散策し、意見交換を行いました。

<取組について>

- ・岡崎市からの委託による動植物調査では、国、県及び岡崎市のレッドリストで絶滅危惧 I A種に指定される種など、生物保全上重要な種が多く見られ、重要な生態系が存在している。
- ・沈砂池は、次第に土砂が堆積していってしまうため、維持するには堆積土砂の泥上げが必要で、市内の自動車会社からのボランティアの協力を得て、泥上げ作業を実施している。特定外来種オオフサモの駆除にも協力してもらっている。
- ・ビオトープでは、特定外来生物オオフサモ、エフクレタヌキモに苦慮しており、駆除には地元の中学生ボランティアに協力してもらっている。また、エンジンポンプによるヘドロ除去と池干しにより、ビオトープの水質の改善に取り組んでいる。
- ・生物多様性を図るためにも材（薪など里山で得られるもの）を循環させなければならない中で、里山の生業についても体感してもらうため、この木はこう使える、売れるという点も見せられるように工夫している。

<参加者からの意見、感想>

- ・机上で資料を見るよりも現地を見て、沈砂池、ため池、ビオトープの役割など説明をうけられたのがよかった。管理がしっかりされている。
- ・様々な機関・所属の方が参加し、フィールドで意見交換会を行う貴重な機会だと感じた。
- ・企業や地元の学生の力が入っているのがすごいと思った。学習にもなるし、マンパワーの確保につながるし、よい取組だと思った。
- ・NPOの高齢化や予算の不足など同じ問題を抱えているとことが分かった。企業や学生の協力を得るといったことを参考にしたい。
- ・遠方ではなく、近い場所で里山を学べるのはよいと思う。
- ・里山管理に民間の会社が入っている事例として、大変参考になった。
- ・価値の高い希少生物を守りながら、市民協働を大きくしていくのはバランスが難しいと思う。
- ・課題は多いが、経済的合理性や利益収入もありとしていく考え方。また、その考えに至るまでの苦勞を知ることができた。
- ・人間が手を入れた自然から人間がいなくなった後の「人工的な自然」を守ろうとする試みであり、興味深かった。

おかざき自然体験の森での勉強会の様子



①管理等にて、おかざき自然体験の森の取組について講義を受けました。



②講師の岡田氏の説明を受けながら、湧水付近から散策を始めました。



③調整池でも特定外来種オオフサモに苦慮している。(R6 年度駆除予定)



④夏にはヘイケボタルが鑑賞できる、ため池下の小川。水門を開ける時には、ホタルに留意している。



⑤ビオトープは、地元中学生の協力も得ながら管理し、希少種が確認されている。



⑥里山で得られる材の循環についても、取り組んでいる。